

★ ごあいさつ ★

皆様には、平素より北星信用金庫に対し格別のご愛顧、お引き立てを賜り厚くお礼申し上げます。

本年も当金庫の経営内容についてまとめました「北星信用金庫の現況2013」を作成いたしましたので、ご高覧いただき当金庫へのご理解を一層深めていただければ幸いに存じます。

さて、昨年度の日本経済は、デフレ、円高に伴う国内需要の低迷や、欧州の財政・金融危機の深刻化に伴う世界経済の減速、中国経済の減速および日中関係の悪化や東日本大震災の復旧・復興計画の遅れ等が加わり、停滞感、閉塞感が強い状況が続いていました。昨年12月からは、新政権が掲げる積極的な金融緩和によるデフレ脱却等への期待感により円高の修正や株式市場の回復など一部に明るい兆しが見られるものの、景気回復を実感できるまでには至っておりません。当地においては、過疎化による人口減少と少子高齢化が一層進行しており購買力が低下してきております。また、財政悪化により公共投資が縮減され、基幹産業である建設関連が低迷、加えて農業においても異常気象により作物生産が不安定となるなど、基本的に明るい材料に乏しい状況となっています。

このような環境の中ではございますが、平成24年度の当金庫の業績は、預金平均残高が前期比2.15%増加の2,346億円、貸出金平均残高が前期比0.56%減少の800億円となりました。損益面では貸出金利の競合激化による利ざやの縮小もありましたが、下期後半の円安・株高による利益の積み増しができ、経常利益は940百万円、当期純利益は588百万円を計上することができました。なお、自己資本比率は国内基準4%を十分に上回る水準の14.80%を確保しております。

平成25年度は、新長期3ヵ年経営計画「北星しんきん『つなぐ力』発揮2012」の2年目にあたります。同計画では、地域や取引先と真に向かい合って、地域や顧客が抱える様々な課題の解決に取り組む「課題解決型金融」を強化していくことを目指しております。引き続き、地域金融機関としての使命を自覚し、お客様満足がより向上する金融サービスの提供を図りながら「組織的な営業活動」を更に推し進めますとともに、役職員全員が決意も新たに目標に向かって邁進することで皆様の期待に十分応えられる信用金庫を目指してまいります。

皆様方におかれましては、今後とも変わらぬご支援、ご協力を賜りたく心からお願い申し上げます。

平成25年7月



北星信用金庫 理事長

岡本 守